

FY18 第1四半期
決算説明資料

2018年7月31日
東京特殊電線株式会社

目 次

1. 決算概要	• • • • •	P.02
2. 配当金・業績予想	• • • • •	P.06
3. 参考資料	• • • • •	P.08

1-1. 損益計算書

(単位：百万円、%)	FY17 1Q	FY18 1Q			増減要因
	実績	実績	増減	増減率	
売上高	4,352	4,465	+113	+2.6	
売上原価	3,166	3,431	+264	+8.4	
売上総利益	1,185	1,033	▲151	▲12.8	材料費の上昇、連結子会社類焼等の影響
販売費及び一般管理費	536	556	+20	+3.9	
営業利益	649	476	▲172	▲26.5	
経常利益	665	493	▲172	▲25.8	
税引前利益 (※1)	664	490	▲173	▲26.1	特別利益 ▲0 (+0 → +0) 特別損失 ▲0 (▲2 → ▲2)
当期純利益 (※2)	513	366	▲146	▲28.6	法人税等調整額 ▲35 (+3 → ▲32)

※1 税金等調整前四半期純利益 ※2 親会社株主に帰属する四半期純利益

1-2. 損益計算書（分野別売上高）

- 売上高は4,465百万円となり、前年同期比+113百万円（+2.6%）の増収となった。
- 売上高増減に含まれる為替変動による影響額+11百万円
（分野別：電線・ヒータ分野 +22百万円、デバイス分野 ▲11百万円）
- 電線・ヒータ分野は主に自動車向けシート用ヒータ線が好調な推移となり、前年同期比+3.4%の増収となった。
- デバイス分野についてもスマートフォン等の基板導通検査治具に使用されるコンタクトプローブの好調に伴い、前年同期比+1.3%の増収となっている。

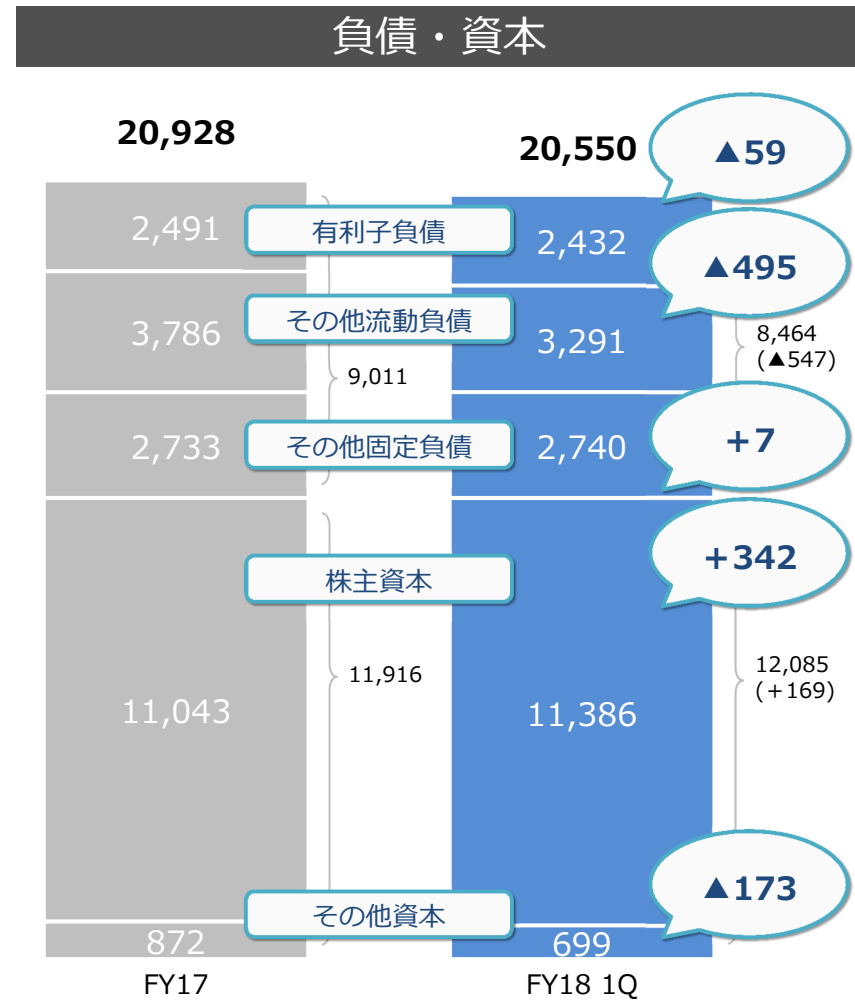
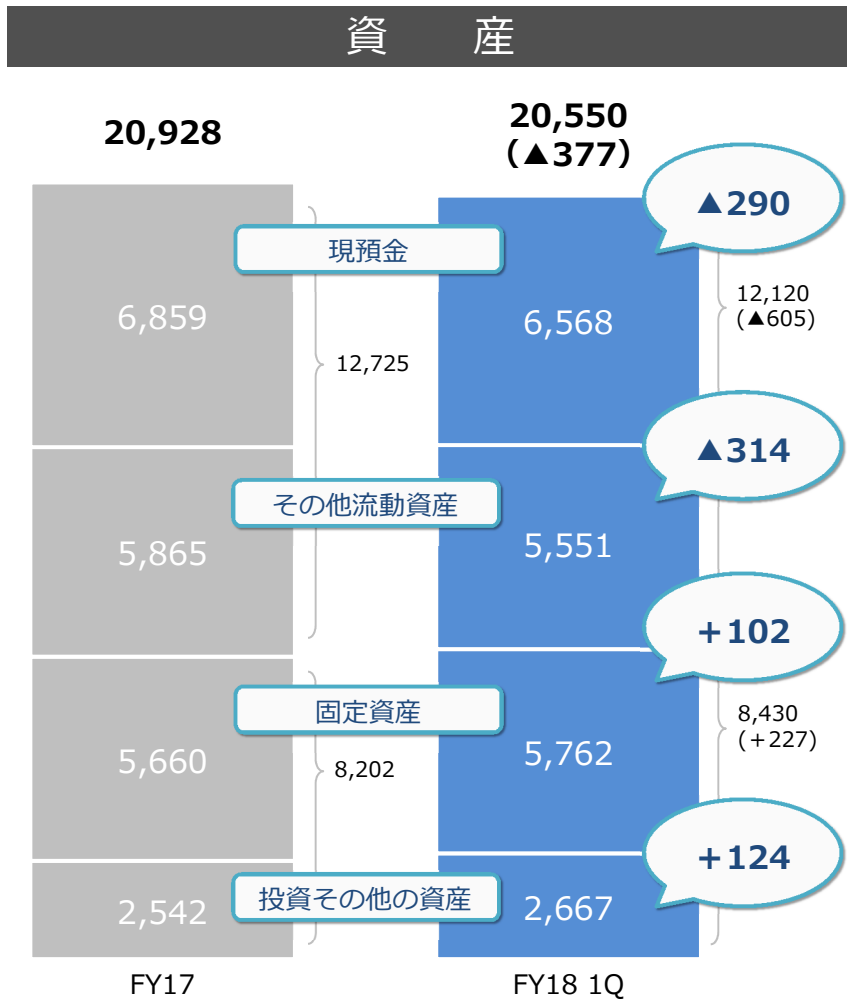
(単位：百万円、%)	FY17 1Q	FY18 1Q		
	実績	実績	増減	増減率
売上高	4,352	4,465	+113	+2.6
電線・ヒータ分野	2,764	2,858	+94	+3.4
デバイス分野	1,550	1,570	+19	+1.3
その他分野	37	36	▲0	▲1.7

1-3. 当期純利益変動要因（前年同期比）



(単位：百万円) 括弧内は実績、税引前利益 = 税金等調整前四半期純利益、少数株主損益 = 非支配株主に帰属する四半期純利益、当期純利益 = 親会社株主に帰属する四半期純利益

1-4. 貸借対照表



現預金には古河ファイナンス・アンド・ビジネス・サポート（株）に対する預け金を含んでおります。

固定資産：設備投資+493百万円、償却費▲153百万円、除売却▲3百万円、その他▲234百万円

Net有利子負債は、前期末比+231百万円の▲4,136百万円

2-1. 配当金

(単位：円. 銭)	年間配当金			総額 (百万円)	配当性向 (%)
	中間	期末	合計		
FY16	10.0	30.0	40.0	271	12.1
FY17	20.0	40.0	60.0	407	20.4
FY18 (予想)	30.0	30.0	60.0	—	22.4

2-2. 業績予想

(単位：百万円、%)	FY17	FY18		
	実績	今回予想	増減	増減率
売上高	18,924	18,500	▲424	▲2.2
営業利益	2,615	2,300	▲315	▲12.1
経常利益	2,571	2,250	▲321	▲12.5
当期純利益 (※)	1,994	1,820	▲174	▲8.7

上表、業績予想に含まれる連結子会社（インドネシア）類焼による影響額は以下となります。

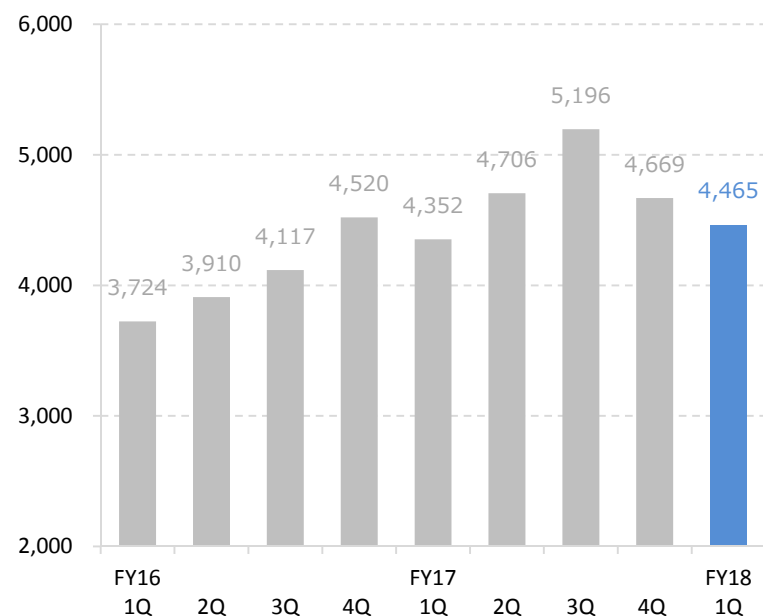
(単位：百万円、%)	FY17	FY18		
	実績	今回予想	増減	増減率
営業利益	▲434	▲125	+309	+74.7
特別利益	314	—	—	—
保険金収入	314	—	—	—
特別損失	▲374	—	—	—
棚卸損失	▲157	—	—	—
固定資産損失	▲105	—	—	—
復旧に係る費用	▲111	—	—	—
当期純利益 (※)	▲495	▲125	+370	+74.7

※ 親会社株主に帰属する四半期純利益

3-1. 売上高（連結）

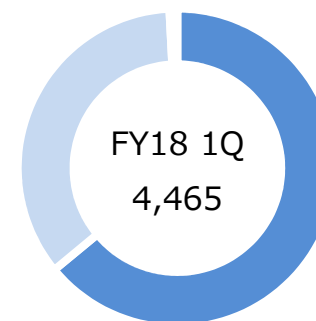
- 電線・ヒータ分野は主に自動車向けシート用ヒータ線が好調な推移となり、前年同期比+3.4%の増収となった。
- デバイス分野についてもスマートフォン等の基板導通検査治具に使用されるコンタクトプローブの好調に伴い、前年同期比+1.3%の増収となっている。

売上高



(単位：百万円、%)

売上高割合

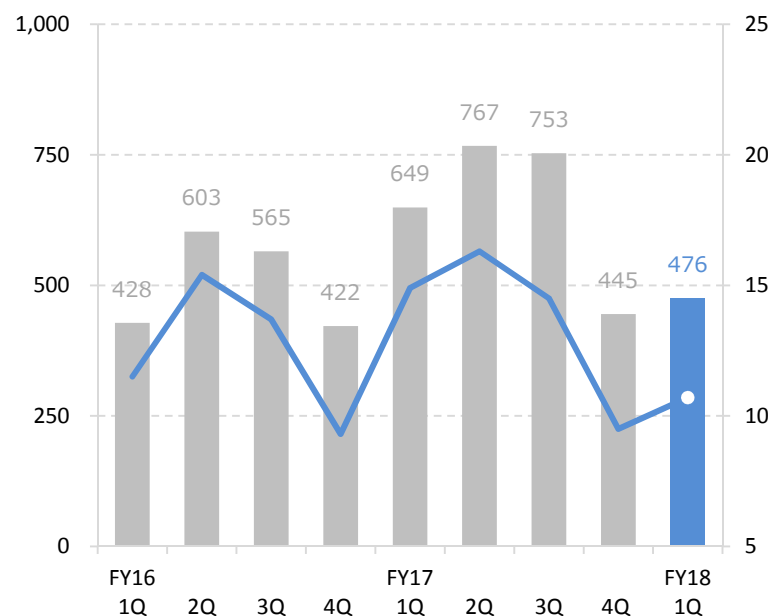


- 電線・ヒータ分野：2,858 (64.0%)
- デバイス分野：1,570 (35.2%)
- その他分野：36 (0.8%)

3-2. 営業利益（連結）

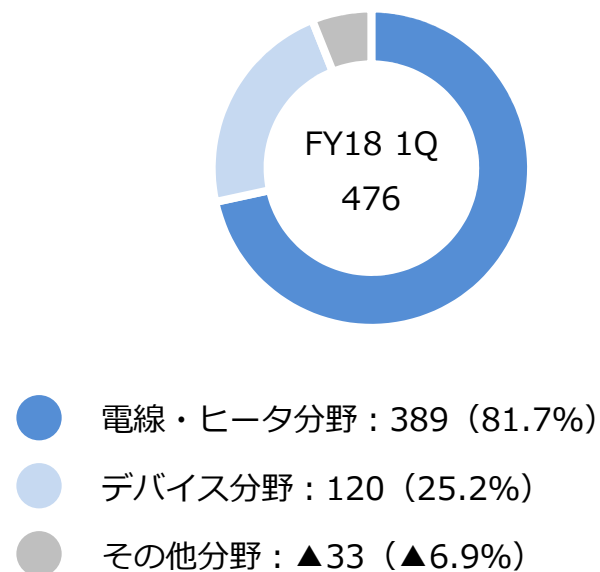
売上高では増収となったものの、銅価格の高騰や本体、連結子会社での労務費単価の引き上げに伴う人件費の増加並びに連結子会社（トウトクインドネシア）類焼等の影響を受け、原価率が上昇した為、前年同期比▲26.5%の減益となっている。

営業利益



(単位：百万円、%)

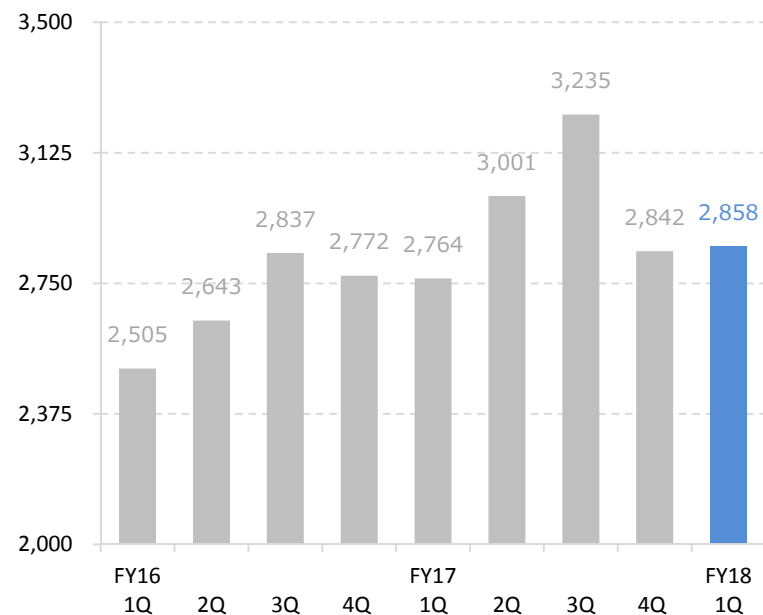
営業利益割合



3-3. 分野別概況（電線・ヒータ分野）

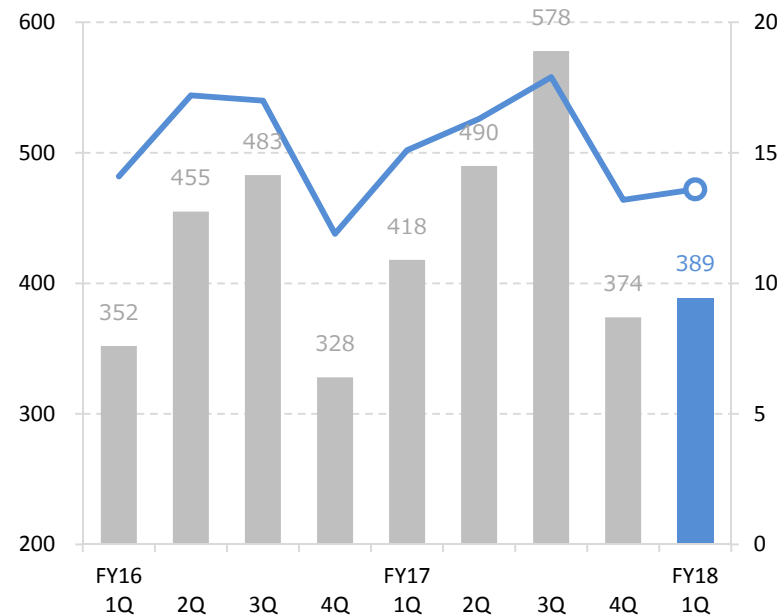
- 売上高は主に自動車向けシート用ヒータ線が好調な推移となり、増収となった。
- 営業利益については、主に主要原材料である銅価格の高騰（国内建値平均：FY17 1Q 672円 → FY18 1Q 796円）となった影響を受け、減益となっている。

売上高



(単位：百万円、%)

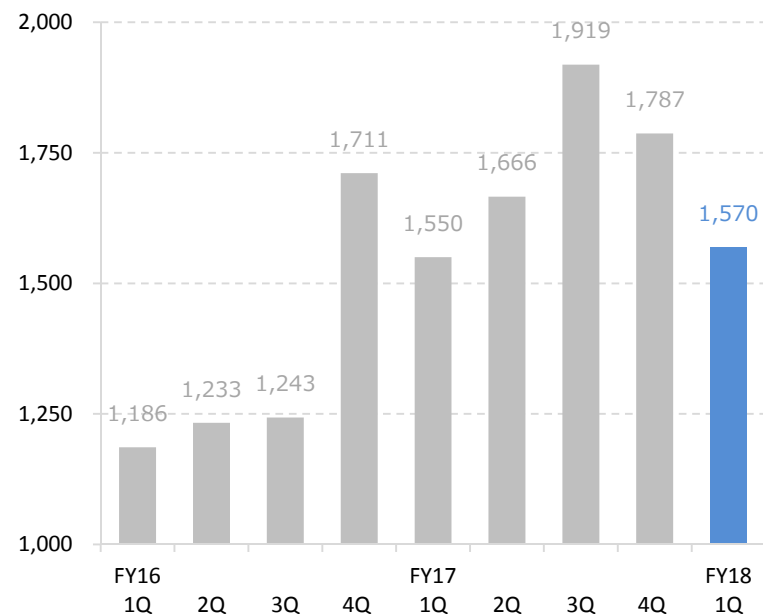
営業利益・利益率



3-4. 分野別概況（デバイス分野）

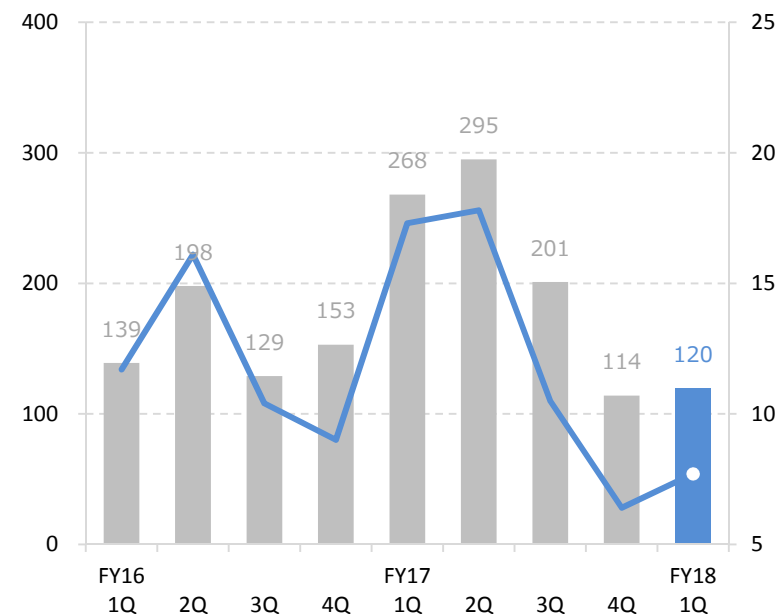
- 売上高はスマートフォン等の基板導通検査治具に使用されるコンタクトプローブの好調に伴い、増収となった。
- 営業利益については、連結子会社（インドネシア）類焼による影響を受け、海外子会社での原価率が大幅に上昇した為、減益となっている。

売上高



(単位：百万円、%)

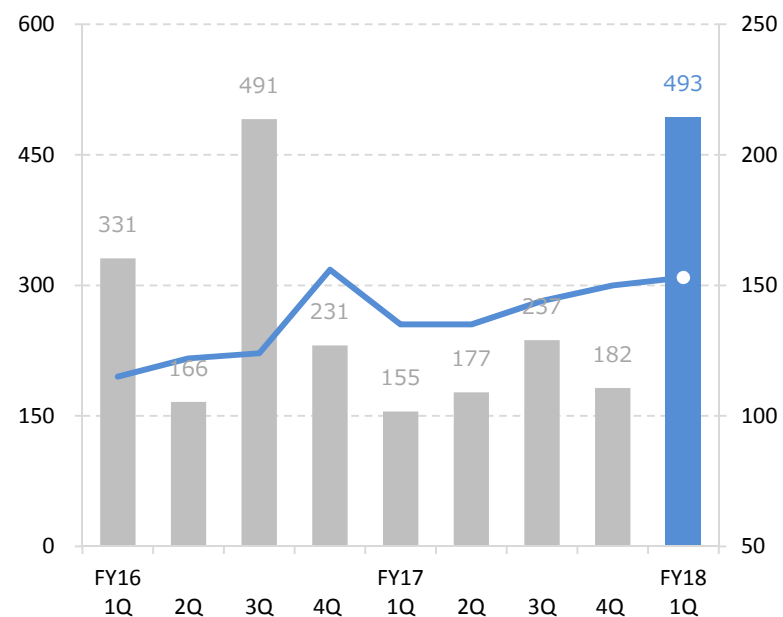
営業利益・利益率



3-5. 設備投資・研究開発費（連結）

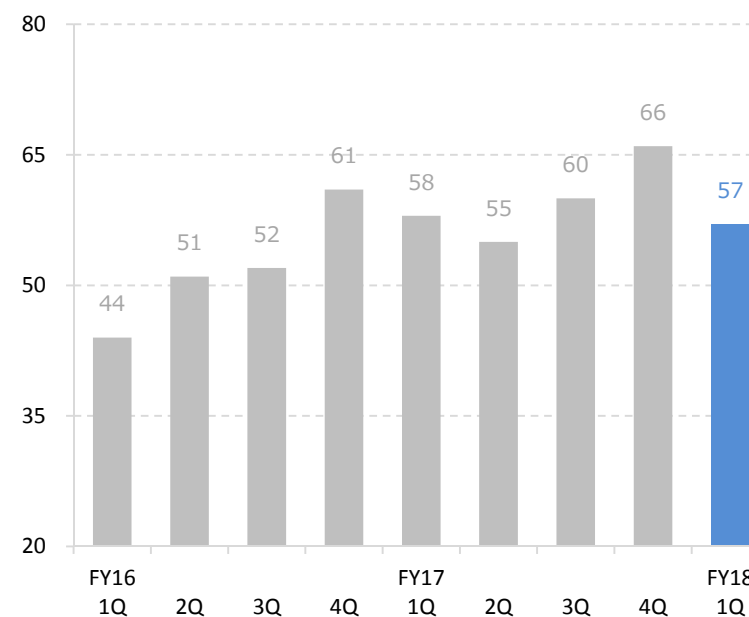
- 設備投資は、前年同期比+338百万円の493百万円となった。
（本体 173百万円、連結子会社 320百万円）
- 研究開発費は、前年同期比▲1百万円の57百万円となっている。

設備投資・減価償却費



(単位：百万円)

研究開発費



3-6. 貸借対照表 (数値)

(単位：百万円、%)	FY17	FY18 1Q			増減要因
	実績	実績	増減	増減率	
流動資産	12,725	12,120	▲605	▲4.8	
現預金 (※)	6,859	6,568	▲290	▲4.2	
その他	5,865	5,551	▲314	▲5.4	
固定資産	8,202	8,430	+227	+2.8	
有形、無形固定資産	5,660	5,762	+102	+1.8	
投資その他の資産	2,542	2,667	+124	+4.9	
資産合計	20,928	20,550	▲377	▲1.8	
流動負債	4,999	4,456	▲543	▲10.9	
固定負債	4,012	4,008	▲4	▲0.1	
負債合計	9,011	8,464	▲547	▲6.1	
株主資本	11,043	11,386	+342	+3.1	
その他	872	699	▲173	▲19.9	
純資産合計	11,916	12,085	+169	+1.4	
負債純資産合計	20,928	20,550	▲377	▲1.8	
自己資本比率	52.9	55.6	—	+2.7	
有利子負債	2,491	2,432	▲59	▲2.4	
Net有利子負債	▲4,367	▲4,136	+231	+5.3	

※ 現預金には古河ファイナンス・アンド・ビジネス・サポート (株) に対する預け金を含んでおります。